

(有)ブレイブポイント 【防犯環境アドバイザー】 高村 聡



専頁

第3種郵便物認可

# 高層住宅防犯に難

## 事件発生 年10万件 上階、人目少なくて抑えられなくなった

9歳の男児を15階から投げ落とすという異常な犯罪は、都会に次々と建つマンションの死角で起きた。今回の事件をどう見ればいいのか。

影山任佐(しんさ)・東工大教授(犯罪精神医学)は「目撃される危険を冒してまで、最上階から落とそうとする行為は、人が苦しむ姿を見なかったためだろ」とみる。清掃作業員の殺人未遂事件では、今井健詞(けんじ)容疑者は体を抱き上げて落とそうとしたという。影山教授は「単に殺すだけなら気絶させてからでもいいはず。一種の快楽犯罪といえる」と指摘。人を落としたいという衝動が、何らかのストレスが引き金となっ

て抑えられなくなったのではないかとみている。「犯罪者は入りやすく、外部から見えにくい場所を好む」。小宮信夫(のみやのぶ)・立正大教授(犯罪社会学)は、事件が起きたマンションはその典型例だったと指摘する。オートロックがなく、3階ごとに止まるエレベーター、玄関ホールや共用の廊下には誰でも自由に出入りができ、住民と建て住宅を除くマンション部外者の区別がつきにくい。マンションでは上階に行くほど、何が起きていたのか分りにくく、ニューヨーク市の調査によると、上階の方が犯罪が起こりやすいという。警察庁によると、一戸建て住宅を除くマンションなどの中高層住宅では00年以降、毎年10万件を超える犯罪が起きている。一戸建てに比べて、割合が低く、殺人や強盗などの凶悪犯、傷害などの粗暴犯、わいせつ事件の割合が高いのが特徴だ。

## 北側に要注意・あいさつを・カメラ増

マンションでの犯罪から子どもを守るために、何に気をつければいいのかを専門家に聞いた。マンション住民向けにセミナーを催す防犯環境アドバイザーの高村聡さんは「子どもにとって危険な場所といえは、大人は例えば「暗い場所」を想像する。しかし、実際に危険

### 子ども どう守る

な場所とはキャップがある」と話す。マンションの防犯では方角にも着目すべきだとの意見だ。南側は窓が多くて住民の視線が集まるが、北側は窓が少ない。「北側に駐輪場や公園などの共有スペースがあると、そこが危険な場所になる」。事件が起きた廊下も、北側にある。

現場のマンションにはオートロックがないが、「むしろセキュリティが高いマンションは警戒心が薄れてくる」。セキュリティを看板にするマンションはたいがい大規模だ。だが、カメラを複数付けるなど、人目を増やして部外者が入りにくい環境にすることが効果的であることに変わりはない。「いったん侵入されてしま

た。子どもの危険回避研究所の横矢真理所長は「カメラや住民との接触をさして嫌がらな侵入した今回のケースは特殊と見えるが、『対策をしても無意味』と考えるのは違う」と指摘。「近隣にあいさつをかわし、カメラを複数付けるなど、人目を増やして部外者が入りにくい環境にすることが効果的であることに変わりはない」と強調した。

### 事件の経緯

3月17日 夕方、川崎市多摩区中野島5丁目のマンション「リバーグリーン和泉」最上階の15階に不審な男が約30分間とどまっている様子が、エレベーターの防犯ビデオに映る  
20日 14階に住む山川雄樹君が午後0時50分ごろ転落して死亡。15階にランドセルが置かれていた。神奈川県警は事件と事故の両面で捜査を開始  
21日 司法解剖の結果、雄樹君の死因は心臓破裂と確認  
29日 マンション清掃作業員の女性(68)が午前9時半ごろ、不審な男に「ごみがあるので見てほしい」と声をかけられ15階に連れていかれ、突き倒される。県警は雄樹君も何者かに投げ落とされたとみて殺人事件として捜査本部を設置  
30日 転落死の直後のマンション防犯ビデオに男が自転車を押す姿が映り、事件直前に雄樹君と一緒にビデオに映って

